



道具は身体の延長であり、

人は道具的存在である。

# Homo material

— 人と民具と暮らしの国際比較 —

*Homo material*: An international comparison of humans, utensils and ways of life

2016 **2/20** [Sat.] 10:00-17:50

神奈川大学横浜キャンパス 24号館 105教室

参加自由 / 事前申込不要 (先着順)



神奈川大学日本常民文化研究所蔵 アチック写真  
上 [目録番号]ア-9-89  
左下[目録番号]ア-105-2-2



**趣旨説明** 佐野 賢治 (日本常民文化研究所所員)

**基調講演** 神野 善治 (武蔵野美術大学教授)

“民具”の形態学 — 伝統のカタチをいかに解釈するか —  
Morphology of "Mingu": How to decipher the traditional forms

**パネルディスカッション**

■ ジョセフ・キブルツ (フランス・国立科学研究所主任研究員)

お札(ふだ)に読める民間信仰 — 柴又帝釈天をめぐる —  
The World of Folk Beliefs: The Taishaku-ten of Shibamata

■ 孟凡行 (中国・天津工業大学芸術と服装学院副教授)

民具の性質と文化構造 — 中国貴州省六枝ミャオ族の民具研究を例として —  
The nature and cultural structure of folk implements: The case of folk implements used by Miao people in Liuzhi, Guizhou, China

■ 鄭然鶴 (韓国・国立民俗博物館学芸士)

漁法・製塩技術からみた漁村生活  
A study on fishing communities focused on fishing methods and salt manufacturing technique

■ 山田 昌久 (首都大学東京教授)

道具と資源環境 — 運用技術・道具名称・交渉環境を探る —  
Tools and Natural Resources: Skills, tool names, environmental factors

■ 眞島 俊一 (TEM 研究所所長)

現代の日常生活行動のパターンの調査報告  
— その相関関係の4つの要素、道具、技術、環境、人間から —  
Survey of Patterns of Actions in Modern Everyday Life: Correlation of the four elements of the survey (tools, techniques, environment and humans)

**総合討論**

コメンテーター: 李惠燕 (韓国・木浦大学校)

登壇者全員

主催: 神奈川大学 国際常民文化研究機構 / 日本常民文化研究所

International Center for Folk Culture Studies / Institute for the Study of Japanese Folk Culture

神奈川大学 HP <http://www.kanagawa-u.ac.jp> 国際常民文化研究機構 <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/> 日本常民文化研究所 <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>

KANAGAWA UNIVERSITY 〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 Tel: 045-481-5661(代表) Fax: 045-481-3155



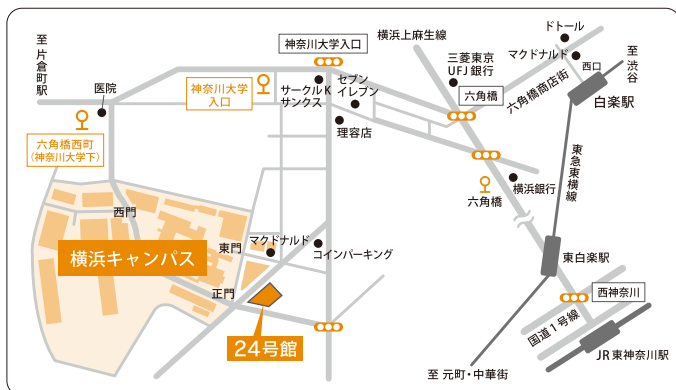
# Homo material

— 人と民具と暮らしの国際比較 —

人類は、道具を手にし、かつ言葉を獲得しそれを駆使することで「文化」的に展開したが、その行動適応の中で作られ用いられてきた道具類は、極めて早い時期に基本的な構造は完成しており、その姿や働きが、今日まで引き継がれているものも多く認められる。実際、民具は多様であるが、基本的な民具には、時代や地域、国や民族を越えて、共通する性格を見出すこともできるのではないかと。生活文化の比較は言語による認識の形成の違いが反映し、複雑に交錯するので多くの困難が伴うが、「暮らし」の中で作られ、使われてきたモノ、民具の基本的な形態や機能を手がかかりにする方法論を確立することで、生活文化の基本的なありかたの国際的な比較ができる。このフォーラムで、民具を通して“人”の個性と普遍性を探る国際常民文化研究の可能性の一例を提示したい。



神奈川大学日本常民文化研究所所蔵 アチック写真 [目録番号] 河 1-16-10



■ 交通アクセス

電車：東急東横線「白楽駅」下車 徒歩13分  
 バス：横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用（東神奈川駅西口経由）  
 1 番乗場 36 系統 菅田町または緑車庫行「神奈川大学入口」下車 徒歩5分  
 1 番乗場 82 系統 八反橋または神大寺入口行「神奈川大学入口」下車 徒歩5分  
 ※駐車場がございませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください。

講師紹介

- **神野 善治**（武蔵野美術大学教授）  
 民俗学、民具研究。博物館学芸員、文化庁文化財調査官を経て、1997年より武蔵野美術大学。研究業績として「釜漁の研究」『沼津市歴史民俗資料館紀要6・7』（日本民俗学会奨励賞受賞）（1983）、「人形道祖神 境界神の源流」白水社（柳田賞受賞）（1999）、「木霊論 家・船・橋の民俗」白水社（2000）ほか
- **ジョセフ・キブルツ**（フランス国立科学研究所主任研究員、コレージュ・ド・フランス極東文化研究所研究員、法政大学国際日本学研究所客員所員）  
 宗教民俗学、民間信仰、文化人類認識学。1973-1976年東京大学宗教学宗教史学研究室、日本文部科学省奨学生。1984 韓国国立全羅南道大学客員教授、1997年チューリッヒ大学東洋学院客員教授、1988-2006年パリ第10大学民俗学・比較社会学・民俗音楽科教授
- **孟凡行**（中国・天津工業大学芸術与服装学院副教授）  
 民俗学、人類学、物質文化研究。中国芸術人類学会会員、陝西省非物質文化遺産研究会常務理事。近年は民具と地域文化研究、芸術人類学、郷村社会構成と農村発展等の分野で興味を持ち、学際的な物質文化の総合研究を提唱している
- **鄭然鶴**（韓国・国立民俗博物館学芸士）  
 物質民俗学。仁川民俗学会会長、仁川市文化財委員、韓国民俗学会・比較民俗学会理事。中央大学・漢陽大学・仁荷大学 民俗学講師。近年の研究課題は世界の塩に関する調査、日韓海洋民族調査
- **山田 昌久**（首都大学東京教授）  
 環境考古学。日本考古学協会、日本民具学会、日本生態学会、日本植生史学会に所属。考古学分野では、木製器具の時系列変遷や系統研究。交渉資源と技術段階毎の器具効力について研究。編著『人類誌集報-首都大学東京考古学報告-』（1987-2015）、『木の考古学』海青社（2012）、『考古資料大観8 木・繊維製品』小学館（2003）ほか
- **眞島 俊一**（株式会社 TEM 研究所所長）  
 生活学、建築学、道具学。日本生活学会元副会長、道具学会理事、トヨタ財団研究助成団体審査委員などを歴任。「世界の建築術」彰国社 / 日刊工業新聞社（第3回技術図書文化賞受賞）（1986）、「台所の百年-生活学 23」ドメス出版（2000年神戸賞受賞）（1999）、「生活学辞典」TBSブリタニカ（1999）、「棚田の謎」農産漁村文化協会（棚田学会賞受賞）（2003）ほか

神奈川大学 国際常民文化研究機構

神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 〒221-8686  
 Tel.045-481-5661 (代表) Fax.045-481-3155

神奈川大学 HP <http://www.kanagawa-u.ac.jp>  
 国際常民文化研究機構 <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/>  
 日本常民文化研究所 <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>